

科目名	法 学	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input type="checkbox"/> 専門教育科目 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 栄養士必修
英文表記	Law	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年
ふりがな	なかがわ しゅういち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	中 川 修 一	修得単位	2 単位
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 〔テーマ〕社会において、法と日常生活がどのような形式で関わっているかを、その関わりを理解させる。		
準備学習	その都度、新聞や資料を配布します。その資料をよく読み授業に集中すること。		
授業概要	私たちは、法を意識しないで生活しております。ところが普段の生活においては、自然に法を守って生活しております。常に法と同居しております。この講義では、法と日常生活がどのような形式で関わっているかを、理解しやすく実例をあげ具体的に授業をします。		
授業計画			
第1回	法と社会(基礎組織)	(1)	法とは何か
第2回		(2)	社会生活と社会規範
第3回		(3)	法と道徳
第4回		(4)	法と権利義務
第5回		(5)	法の適用と解釈
第6回	裁判と法	(1)	裁判制度・裁判員制度
第7回	消費生活と法Ⅰ		
第8回	消費生活と法Ⅱ		
第9回	家族生活と法		
第10回	社会福祉と法Ⅰ	(1)	介護保険
第11回		(2)	医療と法
第12回		(3)	高齢者問題と法
第13回	基本的人権	(1)	自由権と平等権
第14回		(2)	社会国家と法Ⅰ
第15回		(3)	社会国家と法Ⅱ
第16回	テストまとめ		
テキスト	優しく学ぶ法学		
参考文献	授業で紹介		
評価の方法	出席。テスト。その他などで総合評価。		
学生への メッセージ	法治国家ですので、人より一つでも多く法を知りましょう。		

科目名	心理学	科目分類	■教養科目 □専門科目	
			栄養士	□必修 ■選択
英文表記	psychology	開講年次	□1年 ■2年	
ふりがな	みつだ もとお	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	光田 基郎	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕心理学について基礎的な知見を得るほか、受講者全員で基礎的な実技を体験する。 〔テーマ〕人格－行動－学習の連鎖			
準備学習	特に必要なし			
授業概要	視聴覚教材と電算画面での実験または質問紙利用の人格査定に関する基礎的な実技を併用して、心理学に関する基礎的な知見を習得する。			
授業計画				
第1回	電算画面で錯覚の実験を通して、心理学は意識の科学であることを理解			
第2回	先週に引き続き知覚は人が意識の中に作った外界の反映であることを理解。			
第3回	DVDを併用して学習は経験による行動傾向の獲得であると理解する、			
第4回	電算画面の実験を通じて、考える習慣の重要性を理解する。			
第5回	失語のVTRを用いて言語とその障害の様相を理解する。			
第6回	実験を通じて動機は行動の原動力であることを理解する。			
第7回	簡単な人格査定検査を用いて人格は行動を規定する条件の総体と理解する。			
第8回	VTRを用いて、人格の発達とその基礎的な発達課題を理解する。			
第9回	VTRを併用して、思春期の危機と非行・不登校の発生について学ぶ。			
第10回	カウンセリングの基礎実習			
第11回	簡単な実験を用いて、集団がメンバーに与える圧力について学ぶ。			
第12回	実験を併用して集団内コミュニケーションについて学ぶ			
第13回	VTRを併用して、リーダーシップと流行など態度の形成について学ぶ。			
第14回	事故と不注意のメカニズム			
第15回	パニックと乱集行動の回避			
第16回	期末試験			
テキスト	使用しない。必要な資料は毎時間 配布する。			
参考文献	授業中に適宜指示する。			
評価の方法	期末試験成績以外に、出席回数も加点する。			
学生への メッセージ	知識の詰め込みでなく、実技の経験から学んで下さい。			

科目名	運動生理学	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			栄養士	□必修 ■選択
英文表記	Exercise Physiology	開講年次	□1年 ■2年	
ふりがな	さとう みのる	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	佐藤 実	修得単位	2 単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕健康の形成・増進や生活習慣病の予防・改善に効果的な運動を生理学的に理解できること。			
準備学習	解剖生理学や病態生理学で学習したことを想起すること。普段から新聞やネットの関連記事に目を通しておくこと。			
授業概要	健康の形成、増進および生活習慣病の予防・改善の意義、それらに有効な運動の種類と時間、エネルギー消費、運動による効果等について学ぶ。			
授業計画				
第1回	健康の増進と運動(1)	健康の増進の意義、現代人の生活の問題点、運動不足、ストレス		
第2回	健康の増進と運動(2)	肥満の種類と原因・病態、肥満度の判定、メタボリックシンドローム		
第3回	健康の増進と運動(3)	生活習慣病		
第4回	身体運動のしくみ(1)	骨格筋収縮のしくみなど		
第5回	身体運動のしくみ(2)	収縮時のエネルギー供給(運動時間との関係)、呼吸循環器との関連		
第6回	身体運動のしくみ(3)	その他		
第7回	運動とエネルギー代謝(1)	エネルギー代謝の測定、基礎代謝量、メッツ		
第8回	運動とエネルギー代謝(2)	最大酸素摂取量、身体活動レベルなど		
第9回	トレーニングとその効果(1)	トレーニングの種類と方法、トレーニングの原則など		
第10回	トレーニングとその効果(2)	筋繊維の増大、心臓機能増大と肥大、肺機能増大		
第11回	トレーニングとその効果(3)	肥満解消など		
第12回	トレーニングとその効果(4)	トレーニング効果による遺伝子の発現		
第13回	トレーニングとその効果(5)	高血圧の解消(NO、血管平滑筋弛緩)		
第14回	運動と栄養	運動時のエネルギー産生、運動時の栄養素の利用、活性酸素と運動		
第15回	運動選手と栄養	運動選手の食事、運動選手とサプリメント		
第16回	試験			
テキスト	資料の配布			
参考文献				
評価の方法	出席状況、受講態度、試験の成績で総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	栄養学、生化学、解剖生理学、病態生理学、臨床栄養学などで学習したことを想起しながら受講してほしい。			